

リスクマップの作成の 進捗状況について

令和7年2月12日

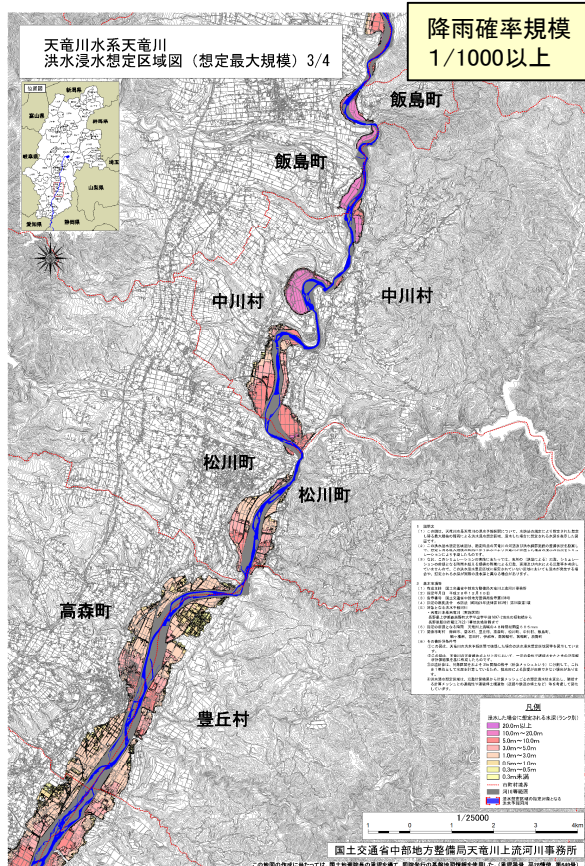
水害リスクマップの作成について

実施主体: 天竜川上流

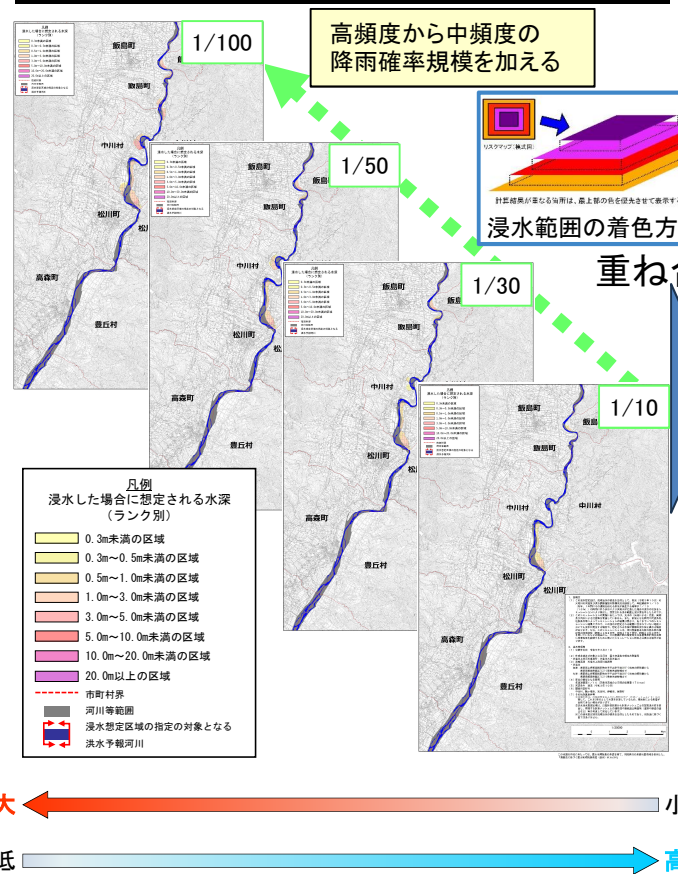
【取組事例】 ③被害の軽減早期復旧・復興のための対策

- 水防法に基づき住民等の迅速かつ円滑な避難に資する水害リスク情報として、想定最大規模を対象とした「洪水浸水想定区域図」を作成、公表した(天竜川上流: 平成28年12月)。
- また土地利用や住まい方の工夫の検討及び水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討など、流域治水の取組を推進することを目的として、発生頻度が高い降雨規模の場合に想定される浸水範囲や浸水深を明らかにするため、国管理河川からの氾濫を対象とした「多段階の浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を作成・公表した(天竜川上流: 令和5年3月)。

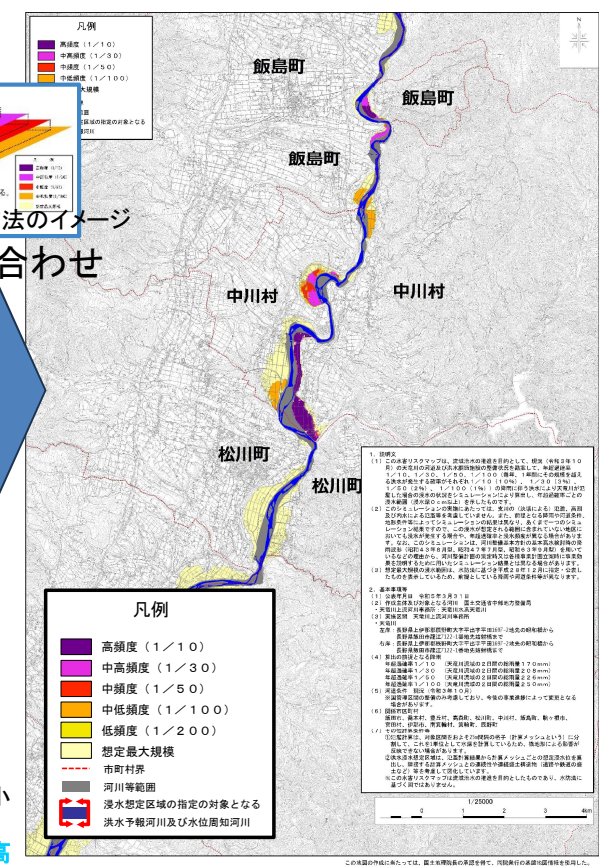
洪水浸水想定区域図



多段階の浸水想定図



水害リスクマップ



水害リスクマップの作成について

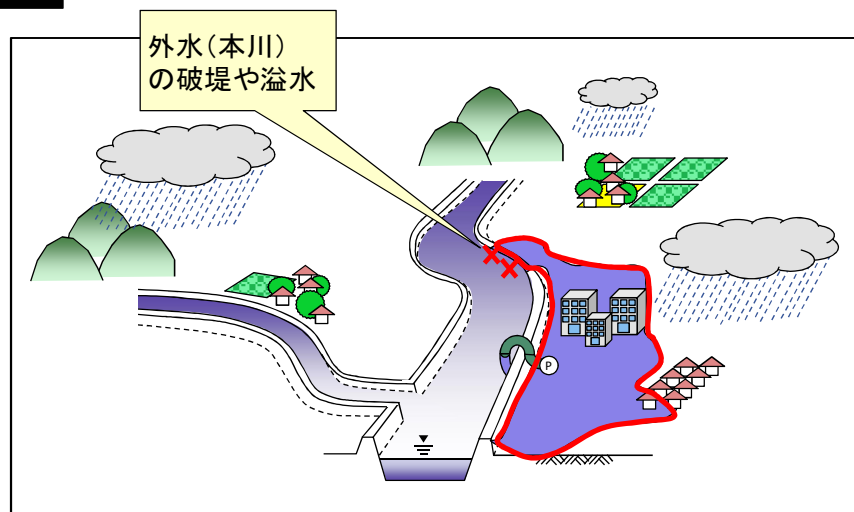
実施主体: 天竜川上流

【取組事例】 ③被害の軽減早期復旧・復興のための対策

- 一般に高頻度、中頻度確率の雨の場合、外水(本川)からの氾濫の前に内水(支川等)からの氾濫が生じるケースが多い。そのため、防災まちづくりに活かす際には、外水(本川)と内水(支川等)の浸水リスクを統合化することが重要であり、国管理河川からの氾濫だけでなく、県管理河川や内水氾濫も表現することが必要となる。
- これまでに提供してきた洪水浸水想定区域図や多段階の浸水想定図、水害リスクマップはすべて国管理河川からの外水氾濫のみを対象としてきたため、県管理河川からの氾濫や内水氾濫も表現した内外水統合版の水害リスクマップを作成する。

これまで

国管理河川からの外水氾濫を対象とした氾濫解析のイメージ

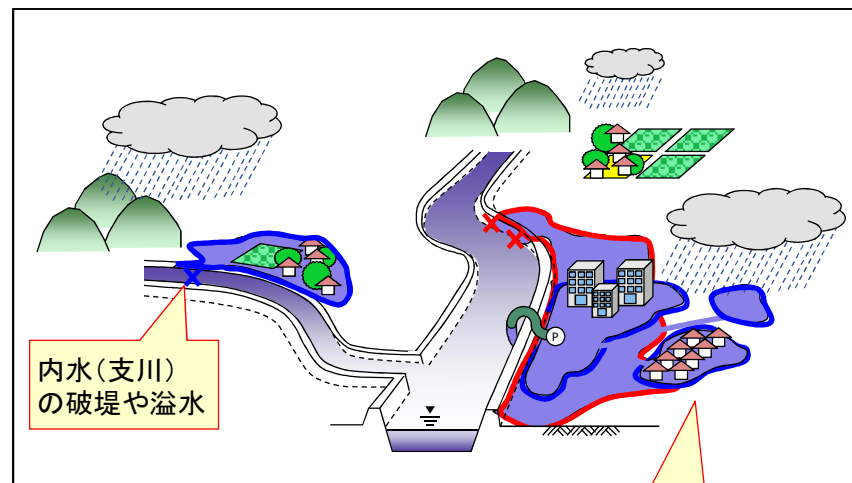


凡例

 : 外水(本川)氾濫

今後

本支川・内外水一体型の氾濫解析イメージ



凡例

 : 内水(支川等)氾濫

凡例

 : 外水(本川)氾濫

流域に短時間に強い雨が降ることによって内水河川や排水路の能力を上回り浸水

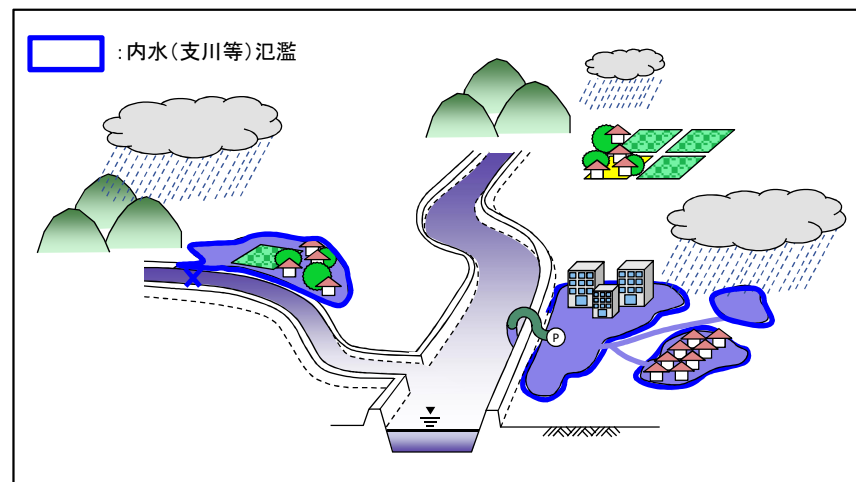
水害リスクマップの作成について

実施主体: 天竜川上流

【取組事例】 ③被害の軽減早期復旧・復興のための対策

- 内外水統合版水害リスクマップを踏まえ、今後は土地利用規制や居住の誘導促進、企業BCPの作成、水害保険へ水害リスクの反映といった活用が期待され、こうした取組により「水災害リスクを踏まえたまちづくり・住まいづくり」を促進していく。
- このような活用を行っていくにあたっては浸水リスク評価を適切に行うことが重要であり、信頼性を有するデータや資料を関係自治体から提供していただくことが重要である。
- 提供いただいたデータを計算モデルに反映し、順次氾濫計算を進めていく。

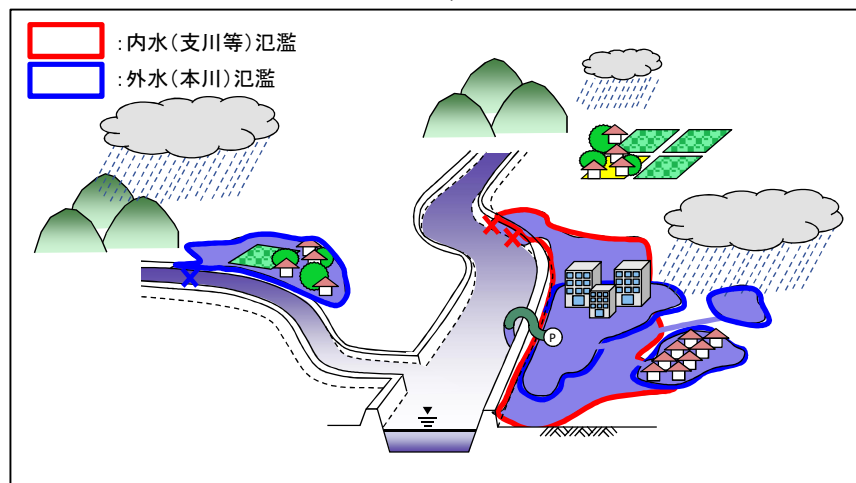
■ 内水の氾濫解析イメージ



令和6年度実施事項

- ・ 県、各市町村に内水に影響する小河川や水路、下水道の情報、浸水実績等の状況を聞き取り、データ提供を受ける。
- 対象機関
- 長野県、岡谷市、飯田市、諏訪市、伊那市、駒ヶ根市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村、松川町、高森町、阿南町、阿智村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村- ・ 聞き取り結果及び提供データを計算モデルに反映し、内水氾濫解析を実施。

■ 内外水の氾濫解析イメージ



令和7年度実施事項

- ・ 国が管理する三峰川、小渋川などの他、県管理河川の外水氾濫を実施する。
 - ・ 内水氾濫結果や県管理河川の外水氾濫解析結果について、県や各市町村に意見聴取を行う。
 - ・ 意見を反映させた内水氾濫結果と外水氾濫結果を統合する。
 - ・ 統合した内外水統合版の水害リスクマップについて、各種関係機関に確認頂いた上で公表予定。
- ※ 実施事項は予定であり、検討状況により変更する場合がある。